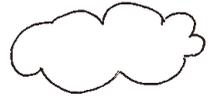
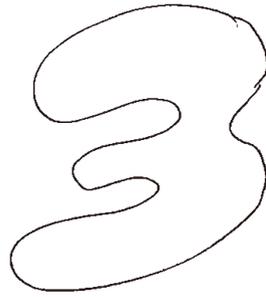


とよ・たち美肌通信

3月号 vol. 188





今日のとよたら美月通信の表紙は、

院長と看護師を描いてくださいました！

周りには、トンボやカマキリなどの虫さんたちが
楽しそうにあそんでいます。

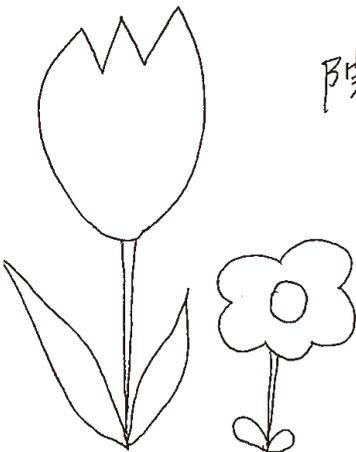
自転車に乗る事が、ダンスを踊る事が好きで

食べものの中では餃子が好きな男の子が

描いてくださいました。ありがとうございます。

院長はじめ スタッフ一同

より感謝いたします。



私達は日々の生活の中で「何で自分だけが...?」とか「どうしてこんな事になるの?」とか一所懸命に頑張っているのに報われないの?と思いたくなる出来事を経験します。川の流氷に逆らって抗っても良い結果が出ない。それは何故だろうかと思つたことはないでしょうか。そう思う時期にはどう考えれば良いかという話を書こうと思います。

結論から先に話します。それは努力の方向 頭の考え方が「宇宙の法則」や真理と真逆だからに他なりません。「鏡の法則」というものがあります。これは心が先で現実の後ということです。例えば「私達は、何かを手に入れれば幸せになれると思ひ込んでいないでしょうか。お金を手にすれば幸せになれるとか、病気が治れば「幸せになれるとか、結婚をすれば幸せになれるとか、そう思って条件をクリアしようと必死になっていませんか。しかしこの「順番が完全に逆だ」です。宇宙の真理はこうです。今この瞬間幸せだと感じているから更に幸せな現実がやってくる。今この瞬間豊かだと感じているからこれから富がやってくる。つまり条件が揃うのが先ではなく、心が先で現実の後からついてくるというのです。しかしにわかには信じ難い人もあるかと思うので想像して下さい。あなたは朝洗面所にいます。鏡の前に立って、おあなたの顔が昨日の嫌なことを引きずって、眉間にシワを寄せた顔面をしてしましましょう。あなたは鏡の自分に向かって「おい お前が先に笑え、そしたら私も笑ってやる、あなた命令しますか!」そんなことをしても鏡の中の顔は絶対に笑いません。あなたが先に笑わなければ鏡の中のあなたも笑わない。逆にあなたが笑った瞬間に鏡の中のあなたも笑いますね。ところが現実になるとこの単純なことを私達は忘れてしまいます。現実だと言うなれば「巨大な鏡だ」と言えます。心の中にあるものがそのまま目の前に映し出されているということ。なのに多くの人は鏡に映った像、つまり結果の方を操作しようとしています。例えば「お金が無いという現実を見てどうにかしてお金を稼ごう」と躍起になっていたり、病気が「という現実を見て闇雲に病気を治そうとする。しかし心の中が不安や失望感で充満したままだといくら現実を変えようとしても無駄である。

それは言うなれば、鏡の中に映ったシワを指で伸ばそうとしているのと同様であり、徒勞に終わるだけである。獲得したい欲しいと強く願う時、心の奥底にある潜在意識では「私には今それがありません」と絶叫している様なものなのです。そしてそれが宇宙に強烈な信号として伝わり、その現実を忠実に自分に帰して来るのです。宇宙というのは、言葉ではなく心の実感に反応するシステムになっている。だから負の実感を強く持っているとき宇宙はその信号通りにその現実を忠実に再度つきつけてくるというのです。

ではどうすれば良いか。答えは至極シンプル。「無いものを数えるのを止めて有るものを数える」。これだけです。そしてあたかも既に満たされているかの様に振る舞う様にすることです。そうする理由はこうです。

今日朝が来て目を覚ました。これ自体が既に当然なことではない。寝ている間に心臓が止まっても不思議でないのに心臓はずっと今も動いている。これだけで奇跡なのです。空気が吸える、水が飲める、食事が美味しい、耳がきこえる、目が見える。この様に探せば感謝すべき豊かさはいくらでも存在する。普段それを当然と思って無視しているから自分には「ないない」と騒ぎ立てることになる。

これらの豊かさに対して「何と恵まれているのだろう」と心の底から喜びを感じる事が出来たなら、その満たされた感情が波動となって体から放たれると磁石が鉄を引き寄せられる様に更なる豊かさが向こうから勝手にやってくる様になるというのです。心や感情が豊かさを感じている時、心の波長は宇宙にある無限の富の波長と同調するからです。これは真実だという。追いかけると逃げていく。どっさり構えて今ある幸せを噛みしめていけば必ず向こうからすり寄ってくる。 院長 拝